ばんどりの滑空を目撃

和良の郷だより

鏡餅

和良おこし協議会発行

ばんどり探検隊を開催

11月27日（土曜日）、キャプテン・ジョージ（池戸浄二氏）隊長とムササビの探検隊を結成して、闇の森を探検しました。

（ムササビの滑空を待つ隊員の姿）

夕刻、集合場所の「わらおこし」に集結した11名のばんどり探検隊の隊員達は、隊長からの指令を受けて自己紹介をしたり、ペアになってこれまでの自然体験を聞き取ります。過去に珍しい生き物と遭遇した体験や、自然や野生生物への想いが語られました。

その後、まだ見ぬばんどりの姿を想像して描いてみたり、キャプテンから「ばんどり」の生態や特長などのレクチャーを受けました。

さて、いよいよばんどりが棲むという森に向けて出発です。キャプテンを先頭に向かった先は、森の中とはいえまだ辺りを認識できる明るさは残っていました。何とかばんどりの形跡を探そうと探検隊一行は辺りを探り始めました。すると、この日の最年少隊員が食痕を探し当てました。それから次々とばんどりの形跡「うんこ」を見つけていくと、他の隊員からは「うんこ見せて！」とシュールな会話が取り交わされていました。

そうしている間にも森の中は闇に包まれてきます。ばんどりの形跡をもとに、キャプテンから本日の待機ポイントが伝えられると、隊員がかたずをのんで巣穴を見つめます。空に星が現れるころ、はっきりとは見えませんが闇の中で空を何かが横切りました。

「飛んだっ！」

隊員達はとうとう「ばんどり」の飛翔を目撃しました。撮影担当の方向に向けて飛んだのですが、残念ながらカメラに収めることは出来ませんでした。すると、今度は違う方向から別のばんどりが大滑空しました。

ベースキャンプに戻り、暗視カメラの録画映像をチェックします。確認すると、そこには巣穴から勢いよく飛び出す数匹のばんどりの姿が記録されていました。

さて、焚火を囲みながら暖を取り、ココアで温まり、アツアツの「ばんどり汁（けんちん汁）」と「いそぱん」のパンとチーズの「ハイジのパン」で軽食を取ります。この日はぐっと気温も下がった夜でしたが、焚火とばんどり目撃の余韻で隊員達の話も盛り上がりました。

最後は隊長の「ばんどりのうた」でしめて、探検隊の隊員達は日常へと戻っていきました。

（探検後、焚火で温まる隊員）

（ライトを片手にふん探し）

（ばんどりの姿を想像する）

発眼魚卵放流

11月29日（月曜日）、和良小学校3年生のふるさと学習の一環で和良川漁業協同組合大澤克幸組合長から和良川の鮎やあまごのお話を聞きながら、放流体験を行いました。

寒い朝でしたが、3年生のみんなは元気に集合場所まで小学校から歩いてやって来てくれました。例年の川遊びが開催できなかったため、今年はあまごの発眼魚卵の放流を体験してもらうこととなりました。谷沿いの道を少し上がったところに何箇所かポイントを決めて約3万粒を放流しました。魚卵からのぞく目を見て恐る恐るのぞき込んだり、綺麗と話す子どもたちもいたりしました。放流が終わると「みんな大きくなってね」や、「釣り人に釣られないでね」などと話す声が聞こえてきました。

（石の隙間に魚卵を入れる）

地域づくり先進事例を視察

11月25日・26日（金曜日）、岐阜県主催の地域リーダー育成・交流事業「先進的な地域づくりの現地視察会」に参加しました。島根県益田市の真砂（まさご）地区と二条（にじょう）地区、そして島根県邑南町（おおなんちょう）の事例を視察しました。

（視察に訪れた益田市と邑南町）

各地域ともに人口減少や高齢化によって担い手不足による課題を抱えています。島根県益田市では、２０１３年に真砂・種・二条・都茂・匹見下の５地区を地域自治組織モデル地区として選定されました。そして２０１６年７月より地域自治組織活動の一環として、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した持続可能な地域運営の実証実験を行っています。

真砂地区では、中学校の統廃合などもあり今後は小学校を中心とした拠点施設の構築をされるそうです。保育所の職員が公民館に対して必要な野菜をパソコンで発注し、公民館は地域にいる生産者から納品された野菜を週２回、保育所に出荷しています。毎週の生産者との会議では、集荷できる野菜の状況などを確認した上で保育所の要望を伝え、各生産者と栽培品目や栽培量を調整しています。クラウド上に出荷履歴と金額が記録されるため、短時間で請求書を作成することなどができるそうです。ただし生産者は年配の方が多いため、業務の一部は紙でのやり取りも続けています。

（廃校予定の小学校）

（真砂保育園の様子）

二条地区でのＩＣＴ導入事例は、鳥獣の目撃情報の蓄積です。住民が鳥獣を目撃した時に公民館に報告してもらい、公民館で鳥獣の種類や位置情報を入力したり、猟師がスマートフォンを使ってその場で位置情報を入力することで位置情報が記録できるようになっています。目撃情報が蓄積されたことで、けもの道を見える化することができ、猪などの捕獲率が格段に向上したそうです。現在は、データ収集が出来たため、クラウドサービスの利用は無いようです。

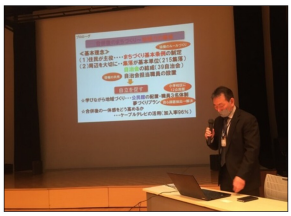
（遠隔で操作可能な箱罠）

邑南町（おおなんちょう）は、20年近く前から「自分たちの地域を自分たちの手でつくる」を実践しており、小規模の地区単位でボトムアップ式に自治に取り組んできたそうで、そのなかで地域法人による事業展開や、住民同士が助け合う仕組みなどを作ってきたそうです。これまでの邑南町での取り組みには子育て世代への金銭的負担を軽減する「日本一の子育て村構想」、ここでしか味わえない食や体験を提供する「Ａ級グルメ」などがあります。

そして、２０１６年度から始まったのが、「地区別戦略事業」です。これは地域住民組織などがテーマごとに地区別戦略（通称ちくせん）を決めて実行します。そして12の公民館エリアごとに、年３００万円の事業費（財源は国による地方創生推進交付金）が用意され、この事業費をもとに、地域住民が移動スーパーや古民家を改修した宿泊事業などを始めたりしています。

取り組みからわずか5年後には人口減少率が大幅に改善し、総務省優良事例表彰（平成24年度総務大臣賞）を受けました。

近年、「小さな拠点づくり」や「ＩＣＴ」を活用した地域づくりが行われていますが、地域づくりはやはり地域住民の手で、そのエリアにふさわしい活動を行うことが大切だと改めて感じた研修でした。


（総合戦略について話を伺う）

（視察への参加者達）

イベント掲示板

北海道大学卒論発表会

とき：1月22日（土）13時30分
ところ：わらおこし（和良町下洞554）
申込：会場にお越しください。

システム思考入門編

とき：1月28日（金）19時30分
ところ：わらおこし（和良町下洞554）
申込：0575−77−2277

和良町の人口

令和3年12月1日現在（カッコ内は前月比）

人口	男性	女性	世帯数
1,609人（−9）	788人（−4）	821人（−5）	687世帯（−3）